

大阪大谷大学 教職教育センター紀要

第 4 号

大阪大谷大学教職教育センター紀要第 4 号発刊にあたって	仲野 務… 1
《論文》	
学習指導要領に関する調査 ——高等学校学習指導要領 保健体育編に関して——	宮内 一三… 2
体育科教育における小・中学校連携の在り方に関する研究	三木 伸吾… 13
《資料紹介》	
中学校学習指導要領社会科の変遷 (1) ——目標の変遷——	松田 智弘… 26
《研究動向》	
保健体育教員養成課程に関する課題と展望	宮内 一三… 37 中田 保彦 三木 伸吾
《研究ノート》	
「体罰」を容認する意識はどのように増幅したのか (その 1)	鍛冶 彰… 41
《事業報告》	
平成 24 年度「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告	仲野 務… 52 峯山美智子 川合 智子
平成 24 年度「教職教育センター行事」について	岡崎由紀美… 63
「面接対策」に取り組んで	徳田喜代士… 70
先生をめざす学生への支援を通して (4 年間で振り返って)	宇野 佳子… 76

2013 年 3 月

大阪大谷大学教職教育センター

Osaka Ohtani University

Teacher Training Support Center Bulletin

Volume 4

Message from the Center Director	Tsutomu Nakano	1
《Articles》		
Findings of a Survey on the Curriculum Guideline : A Case of Health and Physical Education at Upper Secondary Level	Ichizo Miyauchi	2
Toward Better Coordination between Elementary and Lower Secondary Schools in Physical Education	Shingo Miki	13
《Documentation》		
Postwar Human Resource Development Seen from the Curriculum Guideline of Social Studies at Lower Secondary Level and its Transitions (1)	Tomohiro Matsuda	26
《Research Trend》		
Challenges and Solutions of Physical Education Teacher Training Course	Ichizo Miyauchi Yasuhiko Nakata Shingo Miki	37
《Research Note》		
How does a Sense that Permits “Corporal Punishment” Become Pervasive? (1)	Akira Kaji	41
《Activity Reports》		
Overview of Teacher Training Support Center Activities in 2012	Tsutomu Nakano Michiko Mineyama Tomoko Kawai	52
Effects of Teacher Training Support Center Activities in 2012	Yukimi Okazaki	63
Interview Preparation for Teacher Employment Examinations	Kiyoshi Tokuda	70
Reflecting my Four-Year Work at the Center	Yoshiko Uno	76

Teacher Training Support Center
Osaka Ohtani University

【事業報告】

平成 24 年度

「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告

仲野 務*・峯山美智子**・川合 智子***

I. はじめに

学校を取り巻く環境は、今後も急速に変化することが予想される。教職教育センター（以下「センター」という）は、さらなる次代の教育を担う教員養成に関して、これまで以上に、教育に対する高い意欲と指導力を有する人材の育成をめざして、入学から卒業まで様々な教職支援プログラムを企画し、教職に関する履修相談や就職活動をサポートすることを念頭に置いている。

平成 24 年 4 月から人間社会学部は、人間社会学科に加えスポーツ健康学科を新設し 2 学科となり、教育福祉学部教育福祉学科は、教育学部教育学科に名称変更することで、教職課程を有する学科は、文学部の日本語日本文学科、文化財学科と、教育学部教育学科、人間社会学部の人間社会学科、スポーツ健康学科の合計 5 学科となり、各校種の教員免許状取得をめざしている。今後、センターが担う役割や方向性をさらに検討し学生のニーズに沿ったセンターを目指したい。

II. 平成 24 年度

1. 新たな試み

平成 21 年度に「大学教育・学生支援推進事業【テーマ B】学生支援推進プログラム」に選定された『免許を「とりたい」から教員に「なりたい」へつなぐ学生就職支援』の 3 つのプログラムのうち、基礎学力を向上させるための講座である「学力向上基礎講座 '09」（学内通称名「タニスパ」）を 3 年にわたり実施していたが、平成 23 年度末の終了にあたり、新たな基礎学力向上のための試案が検討された。

*大阪大谷大学教職教育センター長

**大阪大谷大学教職支援課課長

***大阪大谷大学教職支援課係長

その結果平成 24 年度は学生の学習意欲を恒常的に高め、学習習慣を身につけてほしいと考えて、「基礎学力向上講座」(学内通称名「タニ☆スタ 6」)を実施することとなった。

実施概要は以下のとおりである。

開 講 時 間：平日 6 限 (18:00~19:30) もしくは土曜


設定クラス：直前 5 教科発展クラス、直前 5 教科復習クラス
 通年 5 教科発展クラス、通年 5 教科復習クラス
 後期理科集中クラス、後期数学集中クラス

講 座 回 数：直前および後期は各 15 コマ、通年は各 30 コマ

直前の 2 クラスは主に 4 回生で教員採用試験を受験する予定の学生を対象としているため、一次試験の始まる 7 月上旬には終了するように、更に教育実習が多い 6 月も避けて日程を定めた。また、当初設定したクラス構成に加えて、受講できなかった学生対象に短期完結クラスを実施した。

図 1 「タニ☆スタ 6」チラシ

教職教育センター主催
 「基礎学力向上講座 (学内名称：タニ☆スタ 6)」のご案内



教員採用試験合格を自慢し、みんなで頑張ろう!

■受 講 料 不 要
 ■学 費 代 ¥5000~¥39000 (クラスにより異なります)
 ■開 講 時 間 18:00~19:30
 ■校 室 学 内 (後日揭示します)
 ■募 集 ク ラ ス A・B・C・D (E・F は 7 月 に 募 集 の 予 定)


■詳 細

クラス名	実施内容	実施教科
A 直前 5 教科発展 95%	問題演習を中心にした授業です。本番での得点力UPを図ります。	国語・社会・英語 数学・理科
B 直前 5 教科復習 95%	数検での補出領域の基本事項を押さえ、得点力を伸ばします。	国語・社会・英語 数学・理科
C 通年 5 教科発展 95%	基本事項を確認しながら、問題演習を交え、実力を伸ばします。	国語・社会・英語 数学・理科
D 通年 5 教科復習 95%	初歩的な問題を確実に正解できる力を養います。	国語・社会・英語 数学・理科
E 後期理科集中 95%	理科の基礎からじっくり力を養います。	理科
F 後期数学集中 95%	数学の基礎からじっくり力を養います。	数学

■受講の条件 (注意事項)

1. 受講希望理由書 (200字以内) を申込時に提出すること
2. 欠席せず、続けること

■申込手順



①クラス分けテストを実施します。

②申込書・顔写真を提出し、学内(タニ☆スタ6)を定額した日、申込書のキャンセルは不要。

③クラス分け結果を確認し、申込用紙も教職教育センターへ送付いたします。

④学費代を現金で支払います。

⑤申込書を教職教育センターで受け取ります。

⑥おはじを渡します。受講しよう!

基礎学力向上講座 (タニ☆スタ 6) 申込書

第一希望：Aクラス・ Bクラス・ Cクラス・ Dクラス
 第二希望：Aクラス・ Bクラス・ Cクラス・ Dクラス

学 籍 番 号 _____ 氏 名 _____

テ ス ト 受 験 日 _____ / _____

表 1 「タニ☆スタ 6」受講者数

学部	学科	回生	A クラス	B クラス	C クラス	D クラス	G クラス	E クラス	F クラス	合計
文学部	日本語 文学科	4 回生	1	3						4
		3 回生			4			1	2	7
		2 回生		1	4	7	1			13
	英米語 学科	4 回生	1	4			3	3	2	13
		3 回生			1	1		1	1	4
		2 回生		1				1	1	3
	文化財 学科	4 回生	1	1						2
		2 回生			1					1
教育福祉 学部	教育福祉 学科	4 回生	31	30		1	29	1	1	93
		3 回生			11	17		8	3	39
		2 回生			14	11		5	3	33
		1 回生	2		1	3	1	2	1	10
人間社会 学部	人間社会 学科	4 回生		2			1	2	1	6
		3 回生			1	6				7
		2 回生			1	2				3
合計			36	42	38	48	35	24	15	238

受講者募集のために、「図 1」のチラシを作成し全学生に配付した。申込手順は、クラス分けテストを受験後、申込書とともに受講への意欲を示す受講希望理由の提出を義務づけ、テストの結果および受講希望理由によりクラス分けを行った。

前期の直前クラスは、7月の教員採用試験を目前にしていることもあり学生も熱気に包まれた講義風景だったが、通年クラスは途中で欠席者が増え徐々に人数が減る傾向にあった。来なくなった学生や、受講クラスに人数制限があるため、選に漏れた学生をどのように指導していくかは今後の課題となった。

講座開始後に、直前クラスの日程から省いていた 6 月を利用して短期完結の過去問チャレンジクラスを全 8 コマで実施した。

今年度の実績を踏まえ、さらに学生が受講しやすいように検討していきたい。

2. 組織および配置

平成 24 年度の教員、職員の配置は次のとおりである。

教員：センター長（兼務）	1 名
センター教員（兼務）	3 名

教職教育担当特任教授 2 名

職員：教職支援課 課長 1 名、係長 1 名、課員 1 名

派遣職員 2 名（合計：専任 3 名、派遣 2 名）

センター長および、教職教育担当特任教授の業務内容も変更なく運営に携わっていただいた。

教職教育センター室の開室時間

平成 21 年度 9：00～17：30

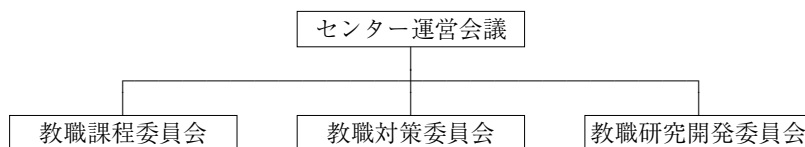
平成 22 年度以降 9：00～11：20 12：20～17：30

Ⅲ. 業務内容

1. 教職支援課の役割

平成 24 年度からは、教育学部教育学科、人間社会学部スポーツ健康学科の入学生が、新たな教員免許状取得を目指しセンターを訪れることになった。入学時から教職に就く事を目標にしている学生ばかりではなく、教免を取得するだけの学生も少なくない中での一時的な指導では、教職課程の授業に対する姿勢やセンター主催行事の受講態度に大きなギャップを生み、対外的にもボランティア、インターンシップ、教育実習、介護等の体験等の実習校園および実習施設に多大な迷惑をかける場合も多い。

そのためにも、大学で学ぶことの意味を考え、学力だけでなく意識の向上を目指す指導を心掛けています。夢の実現を目指して本学に入学した学生達に、十分な配慮を持った教員として巣立つことを願っている。



2. 委員会

教職教育センター運営会議をはじめ教育職員養成課程委員会、教職対策委員会、教職研究開発委員会を 3 本柱にしてセンターを運営している。

センター運営会議

第 1 回

日時：平成 24 年 11 月 7 日（水）12 時 30 分～14 時 15 分

場所：センター会議室

議題：平成 25 年教員採用試験結果報告

教職課程委員会

第 1 回

日時：平成 24 年 4 月 11 日（水）12 時 30 分～13 時 00 分

場所：センター会議室

議題：教職課程委員長選出について

平成 24 年度の教育実習等（訪問担当）について

平成 24 年度免許更新講習実施について

平成 24 年度教職課程予算について

第 2 回

日時：平成 24 年 6 月 27 日（水）16 時 20 分～17 時 35 分

場所：センター会議室

議題：平成 24 年度「介護等の体験」共通理解について

免許状更新講習の規程について

科目等履修生の「教育実習」について

平成 24 年度教育実習の問題点について

教育実習の訪問記録について

第 3 回

日時：平成 24 年 7 月 25 日（水）16 時 20 分～17 時 10 分

場所：センター会議室

議題：平成 24 年度「介護等の体験」について

第 4 回

日時：平成 25 年 1 月 30 日（水）16 時 00 分～17 時 00 分

場所：センター会議室

議題：平成 25 年度「介護等の体験」オリエンテーション実施方法について

平成 25 年度便覧の「教育職員養成課程について」の校正について

平成 25 年度「教育実習日誌」「教育実習依頼について（内諾冊子）」について

平成 24 年度「教育実習」について

教職対策委員会

第 1 回

日時：平成 24 年 5 月 30 日（水）16 時 20 分～18 時

場所：センター会議室

議題：委員長・副委員長の選出

センター研究室について

「タニ☆スタ 6」実施報告について

関東地区の教員採用試験受験生の対応について

教師養成塾について

教職基礎演習等の科目について

第 2 回

日時：平成 24 年 9 月 12 日（水）12 時 20 分から 13 時 30 分

場所：センター会議室

議題：キャリア教育科目「教職基礎演習」「教職基礎英語」「教職基礎日本史」について

教職研究開発委員会

第 1 回

日時：平成 24 年 6 月 13 日（水）12 時 20 分～13 時

場所：センター会議室

議題：委員長・副委員長の選出

平成 25 年度補助金の獲得について

教職教育センターの自己評価について

第 2 回

日時：平成 24 年 10 月 18 日（木）メール会議

場所：センター会議室

議題：「センター紀要」第 4 号について

3. 教職課程・教育実習・介護等の体験

《教職課程》

文学部日本語日本文学科、文化財学科、教育福祉学部教育福祉学科（教育学部教育学科）、人間社会学部人間社会学科、スポーツ健康学科の 5 学科に教職課程が設けられている。

今年度から文学部英米語学科が募集を停止し、人間社会学部にスポーツ健康学科が新設された。取得できる免許状は、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免

許状（国語・外国語（英語）・社会・保健体育）、高等学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・地理歴史・公民・保健体育・福祉）、特別支援学校教諭一種免許状（領域：知的障害・肢体不自由・病弱）となり、このうち高等学校一種免許状（福祉）が新たに取得できるようになった。

《教育実習》

教育実習に行く前年度に、教育実習内諾オリエンテーションを実施するが、このオリエンテーションに出席する人数と資格登録の人数で次年度に教育実習を希望する学生数を把握している。平成 22 年度から平成 24 年度の内諾オリエンテーション出席者数と翌年度の実習生数は表 2 のとおりである。

表 2 内諾オリエンテーションおよび教育実習生数一覧

年度	校種	内諾オリエンテーション出席者数※	教育実習生数
22 年度 実習	幼稚園	—	88
	小学校	—	136
	中・高等学校	—	178
	特別支援学校	—	95
	計	—	497
23 年度 実習	幼稚園	103	102
	小学校	147	139
	中・高等学校	179	154
	特別支援学校	115	101
	計	544	496
24 年度 実習	幼稚園	68	63
	小学校	162	152
	中・高等学校	169	149
	特別支援学校	102	95
	計	501	459

※平成 22 年度実習の内諾オリエンテーションは教務課が実施担当のため人数は未記入。

《介護等の体験》

センターで業務を引き継いで 3 年が経過した。毎年様々な問題点が発生し、その都度オリエンテーションの方法や指導内容を検討してきた。

平成 24 年度の変更点は、次のとおり。

従来福祉施設 3 回、支援学校 1 回、申込オリエンテーション 1 回と個別に説明していたため、全てのオリエンテーションに出席する必要性が認識できず、欠席したり、申込みをしないために体験に参加することができない学生が多くみられたため、後期の申込みをする学生からは、オリエンテーション全 5 回と周知するようにした。

対象学生は、従来どおり文学部・人間社会学部は 3 回生以上、教育学部は 2 回生後期から体験に参加することができる。平成 22 年度からの参加者数は表 3 のとおりである。

表 3 介護等の体験参加者数

	学科	申込者数		終了者数※	
		前期	後期	前期	後期
平成 22 年度	日本語日文学科	1	14	1	14
	英米語学科	0	7	0	7
	文化財学科	2	12	2	12
	教育福祉学科	10	48	9	45
	人間社会学科	7	67	7	64
	科目等履修生	0	1	0	1
	計	20	149	19	143
平成 23 年度	日本語日文学科	9	10	8	10
	英米語学科	1	13	1	13
	文化財学科	7	2	4	1
	教育福祉学科	13	72	12	71
	人間社会学科	9	43	9	38
	科目等履修生	0	1	0	1
	計	39	141	34	134
平成 24 年度	日本語日文学科	15	4	12	4
	英米語学科	3	5	3	5
	文化財学科	4	3	4	3
	教育福祉学科	23	96	21	91
	人間社会学科	24	27	21	25
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	69	137	61	130

※…施設 5 日間、支援学校 2 日間両方の体験終了者数

介護等の体験は、学部学年が混在しているため、学生のモチベーションも様々で、体験への意欲が低下することや、提出書類の不備などによって、福祉施設および支援学校に迷惑をかけることが多い。特に平成 24 年度は、前年度までに比べて問題が多発する結果となった。今後はオリエンテーション実施内容や欠席者への対応について検討を重ね、介護等の体験が学生に

とって有意義な体験となるよう努力していきたい。

4. 免許状更新講習

本学では、平成 21 年度から免許状更新講習を実施している。平成 24 年度からは新たに中学校および高等学校教員向けの講習を追加し 4 講習を実施した。

過去 3 年間の参加者数は表 4 のとおり。

表 4 免許状更新講習参加者数

年度	月日	選択領域	講習時間	参加人数	定員
平成 22 年度	8 月 2 日 (月)～4 日 (水)	特別支援教育講座	18	57	50
	8 月 5 日 (木)	幼児教育講習	6	13	60
	8 月 6 日 (金)	学校教育講習	6	4	60
平成 23 年度	8 月 1 日 (月)～3 日 (水)	特別支援教育講座	18	73	50
	8 月 4 日 (木)	幼児教育講習	6	35	60
	8 月 5 日 (金)	学校教育講習	6	31	60
平成 24 年度	8 月 3 日 (金)～7 日 (火)	特別支援教育講座	18	57	50
	8 月 6 日 (月)	幼児教育講習	6	17	60
	8 月 7 日 (火)	学校教育講習	6	21	60
	8 月 8 日 (水)	中学・高等学校教育講習	6	8	60

5. 教職教育センターレポート

専任教員を対象に、教職教育センターで実施している行事の案内や、教員採用試験対策の情報を報告し、センターの存在を PR する手段として「教職教育センターレポート」をメール配信している。

今年度の内容は以下のとおりである。

号 数	配信年月日・内容
24-1 号	平成 24 年 7 月 18 日 ・ 9 月「教師のお仕事入門」(小学校体験 part 2) (中・小学校体験、高等学校体験)のご案内
24-2 号	平成 24 年 7 月 24 日 ・ H 25 年度 教員採用試験について ・ 教員採用試験合格をめざして！一般教養対策講座のご案内 ・ 基礎学力向上講座「タニ☆スタ 6」後期開講クラスのご案内
24-3 号	平成 24 年 12 月 10 日 ・ 人間社会学部 1 回生を対象にオリエンテーション実施

・教職学内セミナー開催のご案内

6. 大阪大谷大学教職教育センター紀要

「大阪大谷大学教職教育センター紀要」第 4 号発行。

IV. 大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）の今後

名称：『免許を「とりたい」から教員に「なりたい」へつなぐ学生就職支援』

期間：平成 21 年度～平成 23 年度

平成 24 年度は、文部科学省にプログラムの実績報告書、自己点検報告書を提出し、その結果、総合評定 4 段階（S：目標に沿った取り組みが実施されており当該目標を十分に達成している。A：目標に沿った取り組みが実施されており当該目標を概ね達成している。B：目標に沿った取り組みが実施されているが指摘した課題に対応することが求められる。C：目標に沿った取り組みが十分に行われていない。）のうち「A」の評価をいただき、今後の事業内容が問われる年度がスタートした。

教職への就職につながる『教師の仕事入門講座』『学力向上基礎講座』『現場実践経験基礎講座』の 3 つの取り組みについては、実施方法等を検討しながら継続する予定である。

「教師の仕事入門講座」では、「教師のお仕事入門」「実践アクセス講座」を継続して実施している。「教師のお仕事入門」では、近隣の小学校、中学校、高等学校に協力をお願いし、授業参観や教師の仕事に触れる体験をさせていただいている。「実践アクセス講座」は、現職教員、教育委員会の指導主事等の講師をお招きし、学校現場の生の声を講演していただいた。これらによって、現場経験のない学生にとって、実践的指導力を身につける貴重な機会と考えている。今年度の「実践アクセス講座」は下記のとおり実施した。

表 5 平成 24 年度「実践アクセス講座」一覧

	月日	曜日	時限	教室	演題	講師
1	4月27日	(金)	4限	17-101	生徒指導の課題「いじめ・不登校を中心に」	上本 雅也
2	5月11日	(金)	4限	17-101	求められる学力とは	長見 元雄
3	5月18日	(金)	4限	17-101	教職をめざすにあたって	松本 康克
4	5月25日	(金)	4限	17-101	人権教育の課題	明石 一郎
5	6月22日	(金)	4限	17-101	面接指導を通して	墨村未来士
6	6月25日	(月)	1限	1-108	生徒指導と保護者対応について考える	坂本 由美

平成 24 年度「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告

7	10月19日	(金)	3 限	11-201	小学校における総合的な学習の実践	上山 清貴
8	10月19日	(金)	4 限	17-101	学級づくりと生徒指導	杉中 康平
9	11月2日	(金)	3 限	11-201	小学校における総合的な学習の実践	矢野 智文
10	11月2日	(金)	4 限	17-101	学級づくりと生徒指導 -実践を通して-	荒木 規夫
11	11月23日	(金)	3 限	11-201	中学校における総合的な学習の実践	森山 伸治
12	11月23日	(金)	4 限	17-101	国語の授業とその実際	山本 章
13	1月11日	(金)	4 限	17-101	教員をめざすにあたって	石田 要

「学力向上基礎講座」は、第Ⅱ章の1でも報告したとおり形を変えて「タニ☆スタ6」として実施している。

また「現場実践経験基礎講座」は、インターンシップで学校現場を体験した学生の発表として事業期間と変更なく実施している。

以上、平成 24 年度の教職教育センター事業活動のうち教職対策関係行事以外をまとめた。

平成 25 年度も、センター教職員一同新たな気持ちで、教職を目指す学生の支援を一層充実させていきたいと願っている。

【事業報告】

平成 24 年度「教職教育センター行事」について

岡崎由紀美*

I. はじめに

今年度は、教員採用試験の合格状況と3年間の行事参加状況等のデータや反省を踏まえ、各行事の計画を立てた。特に行事参加後、学生が関心を持って自主的な取り組みを行うための仕掛けづくりを進めた。

行事と授業が重なり、行事に参加できない学生には、ビデオ視聴や個別相談などで対応し、学生のモチベーション維持に努めた。今年度の年間行事の実施状況や内容及び参加人数については、文末の表に示すとおりである。また、過去3年間で大きく変更した行事や特徴的な行事について以下に記載する。

II. 行事報告

1. 教職学内セミナー（教員採用試験説明会）

大阪府・大阪市・堺市が実施する教員採用試験の要項は、4月初めには発表される。大阪府、大阪市については、4月末に願書の受け付けが締め切られるため、従来4月中旬頃に設定していた「教職学内セミナー」は、今年度よりオリエンテーション期間中に実施し、早期からの準備体制を整えた。各教育委員会の説明時間については、これまでの1回45分という設定から、1回60分に変更した。

近畿圏以外では、例年比較的多い横浜市教育委員会から学内説明会実施の要望があり、10月24日（水）昼休みに説明会を実施した。教職学内セミナーの日程には合わなかったため、単独の開催となり、参加者は数名にとどまった。

*大阪大谷大学教職支援課

平成 24 年度「教職教育センター行事」について

教職学内セミナー実施一覧

教職学内セミナー実施日	教育委員会名	教室	第 1 回	第 2 回	第 3 回
平成 24 年 4 月 10 日 (火)	大阪府教育委員会	1-108			○
	大阪市教育委員会	1-108		○	
	堺市教育委員会	1-102	○	○	
平成 24 年 5 月 16 日 (水)	京都府教育庁	3-208	○		
	和歌山県教育委員会	3-103	○		
	奈良県教育委員会	3-208		○	
平成 24 年 12 月 12 日 (水)	大阪府教育委員会	3-103		○	○
	大阪市教育委員会	3-208	○	○	
	堺市教育委員会	3-207	○	○	○
	和歌山県教育委員会	3-209	○	○	
	奈良県教育委員会	3-208			○
	京都府教育庁	3-206		○	

説明していただいた教育委員会の先生方からは、「熱心な態度で聞いている。」「次回も是非訪問したい。」との評価をいただいた。参加した学生は、各教育委員会の先生から直接話を聞く事が出来、目前に迫った採用試験への意欲が高まったようである。

以下は説明会終了後のアンケートに寄せられた学生の感想（抜粋）である。

学生のアンケートより

- ・教員採用試験のことだけでなく、教員になった後の初任の時期である状況等についても詳しく教えて頂きました。そこで私は様々な問題や悩みにぶつかった時に、一人で悩まないこと、学校としての組織のチーム力の大切さを知ったので良かったと思っています。
- ・教職に対する意欲が高まるお話を丁寧にくださったので、これから先のモチベーションが高まった。また、貴重なお話やデータまで聞くことができ、とても良いお話だった。できれば兵庫県のお話も聞きたかった。
- ・まず一番にもっと勉強をしよう！先生になろう！という意欲が湧きました。お話を聞いているだけで、自分が教壇に立つ日を早くむかえたいと思いました。そして、もう一つはまだまだ教員採用試験に対する知識が浅いなということです。自分のよさを子どもたちに生かしていける方法が少し見つかった気がしました。
- ・初任の教員をサポートする制度があることは知っていたが、想像以上に充実していました。私自身、教育実習にもいき、教員になりたいと心から思っているので、大学の環境を活用し

平成 24 年度「教職教育センター行事」について

ながら頑張ろうと思いました。

- ・ 教採のことについて詳しく解説して下さったので目標がはっきりし、モチベーションが上がりました。各自治体の目標もわかりやすく説明して下さったので、それを心に刻んで勉強に励みたいと思いました。

教職学内セミナー参加者数

教職学内セミナー実施日	参加学部	単数参加人数	複数参加人数	合計
平成 24 年 4 月 10 日 (火)	文学部	4	5	9
	教育福祉学部	34	18	52
	人間社会学部	6	1	7
	計	44	24	68
平成 24 年 5 月 16 日 (水)	文学部	2	1	3
	教育福祉学部	26	—	26
	人間社会学部	6	—	6
	計	34	1	35
平成 24 年 12 月 12 日 (水)	文学部	12	6	18
	教育福祉学部	52	27	79
	人間社会学部	4	3	7
	計	68	36	104

学生の参加状況を学部ごと、参加コマ数別に集計した結果は、上記表の通りである。文学部・人間社会学部の学生については、2 回生の参加者が複数名含まれる。受験予定の校種や教科によっては、募集人数が少ないことなどから、早い時期より準備をするため各教育委員会の教室を訪問し、熱心に耳を傾け情報を集める様子が見受けられた。

12 月中に各教育委員会が求める人物像や採用試験の状況を把握することで、教員採用試験までの目標設定ができる。その後、モチベーションを維持したまま長期休暇を有意義に過ごせるよう、1 月に教職オリエンテーション、2 月には現場で活躍中の先輩を招いて話を聞く機会を設けた。また、教職教養対策講座・一般教養対策講座とも連動できるよう日程を工夫した。

2. 教師塾等説明会

教育委員会が実施する通称「教師塾」と呼ばれているプログラム入塾のための説明会については、例年通り、昼休みを利用して実施した。

大阪府教育委員会・大阪市教育委員会が募集するプログラムについては、平成 24 年度より、「すべての講座と実習を終え、修了証を取得すると平成 26 年度の教員採用試験の一次試験が免

除になる。」という大きな変更点が発表された。年度当初の予定にはなかったが、急遽、教師塾入塾対策の講座を実施した。現在、教職支援課で把握している入塾者数は以下の通りである。

大阪教志セミナー（大阪府）	24 名
大阪市教師養成講座（大阪市）	5 名
堺・教師ゆめ塾（堺市）	17 名（卒業生含む）
奈良県ディア・ティーチャー・プログラム（奈良県）	6 名

3. 対策講座・オリエンテーション

4 月から 7 月末までに 4 回生を対象として各種の採用試験対策講座およびオリエンテーションを実施している。今年度は参加者も多く、学生の意欲の高さを実感した。教員採用試験の合格者数と対策講座等への参加者数を下表に記した。

教員採用試験合格者の対策講座への参加者数（平成 22 年度～平成 24 年度）

年度	1 次合格者	うち講座参加者			
		1 回のみ		複数回	
平成 22 年度	72	15	20.8%	46	63.9%
平成 23 年度	48	6	12.5%	30	62.5%
平成 24 年度	79	12	15.4%	63	79.8%

年度	最終合格者	うち講座参加者			
		1 回のみ		複数回	
平成 22 年度	45	8	17.8%	34	75.6%
平成 23 年度	37	6	16.2%	21	58.3%
平成 24 年度	47	7	15.2%	36	76.6%

対策講座やオリエンテーションに出席することで同じ目標を持つ仲間と出会い、学科を越えて教え合い、励まし合いながら、教員採用試験対策に取り組んでいる様子をよく目にした。他の学生の姿勢に触れることで、参考になる物や、自分には足りない物を吸収し、筆記試験や面接試験に臨んでいる。

今後の課題は、全てを周りと同じようにするのではなく、個人で学習する事とグループで学習する事を区別し、各自の学習スタイルをつくることである。

4. 教職模試

文末の表に示すとおり、時事通信出版局・東京アカデミー・協同出版による模擬試験を学内

で複数回実施した。「教職基礎演習」（正課科目）のプレースメントテスト・アチーブメントテストを兼ねたことで、受験者数が激増し、早期からの学習対策の意識付けにつなげることが出来た。

Ⅲ. おわりに

1～2 回生の時期からセンターを利用する学生が年々増加し、行事終了後の質問等も具体的になり、「教員になりたい」という意識を早い段階から持つ学生が増える傾向にある。

今年度は、人間社会学部の協力を得て「基礎ゼミ I（学習技術）」（1 回生）の授業時間のなかで、教職に関する情報提供を行うことが出来た。学生の意識付けにつながる良い機会であったと感じている。

次年度は、学科や各部署との連携を更に密にし、早期から学生の意欲を高め、その意欲を維持できるような情報を積極的に発信していきたい。

平成 24 年度「教職教育センター行事」について

平成 24 年度 教職教育センター年間行事 実施状況

カテゴリ	月/日	時間	行事名	内 容	参加人数
教員採用試験 説明会	4/10 (火)	13:00～16:30	4回生対象 教職校内セミナー (大阪府・大阪市・堺市)	教育委員会講師による説明会(事前申し込み制) 各教育委員会ごとに設定した各教室を学生が訪問	68
	5/16 (水)	4・5限 14:40～17:50	4回生対象 教職校内セミナー (和歌山県・奈良県・京都府・兵庫県)	H24年度実施の教員採用試験について、 募集概要や求める人物像等の説明	35
	12/12 (水)	4・5限 14:40～17:50	3回生対象 教職校内セミナー (近隣教育委員会)	教育委員会講師による説明会(事前申し込み制) 各教育委員会ごとに設定した各教室を学生が訪問 H24年度に実施した教員採用試験試験についての概況や各自治 体が求める人物像等の説明	104
4回生対象 教員採用試験 (面接対策講座を除く)	5/12 (土)	4限 14:40～16:10	4回生対象 教員採用試験 筆記試験対策オリエンテーション	小・中・高・特支・政令指定都市の幼 受験希望者対象 直前対策 外部講師による講演 傾向と対策及び、頻出問題の攻略法について等の説明	78
	5/23 (水)	5限 16:20～17:50	4回生対象 幼稚園教員採用試験 筆記試験対策オリエンテーション	幼稚園教員希望者対象 直前対策について、外部講師による講演	14
		中止	4回生対象 教員採用(幼稚園含む) 特別対策講座 図画工作	希望者を募ったが、申込者なしのため、実施せず	-
	6/26 (火)	5限 16:20～17:50	4回生対象 教員採用(幼稚園含む) 特別対策講座 音楽実技	教員採用試験の試験官が評価するポイントや注意点について 教育学部の教員より説明、その後、各自の演奏曲決定と練習	18
	6/29 (金)	昼休 12:15～12:55	4回生対象 教員採用(幼稚園含む) 特別対策講座 小論文	文章を書く際の注意点や原稿用紙の使い方など、 教育学部の教員より説明、その後は個別指導	36
	8/7 (火)	1・2限 9:00～12:10	4回生対象 教員採用(幼稚園含む) 特別対策講座 体育実技	跳び箱、マット、ハードル、ボール運動、水泳について 教育学部教員、教職教育センター教員、外部講師で指導	41
	8/9 (水)	4限 14:40～17:50	4回生対象 教員採用試験 特別支援教育対策講座	採用試験で押さえておくポイントについて教育学部教員より講義	38
	5/8 (火)	昼休 12:15～12:55	3・4回生対象 大阪市教師養成講座説明会	大阪市教育委員会担当講師による説明	51
	5/11 (金)	昼休 12:15～12:55	3・4回生対象 堺・教師ゆめ塾説明会	堺市教育委員会担当講師による説明	39
	5/15 (火)	昼休 12:15～12:55	3回生対象 大阪教志セミナー説明会	大阪府教育委員会担当講師による説明	81
5/22 (火)	昼休 12:15～12:55	3回生対象 ディア・ティーチャー・プログラム説明会	奈良県教育委員会担当講師による説明	11	
5/19 (土)	3限 13:00～14:30	教師塾入塾(面接)対策講座①	先輩の体験談、面接における心得と注意点について 講義及び模擬面接	6	
6/8 (金)	2限 10:40～12:10	教師塾入塾(面接)対策講座②	模擬面接	3	
講師登録 説明会	9/25 (火)	5限 16:10～17:50	4回生対象 講師登録説明会	講師の採用について 概要説明と登録の方法について説明	登録者 120
	11/2 (金)	5限 16:20～17:50	4回生対象 講師登録説明会<予備日>		
3回生対象 オリエンテーション(対策等)	5/9 (水)	4限 14:40～16:10	3回生対象 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	学習方法・情報収集について 幼稚園を除く全校種 外部講師による講演	156
	5/18 (金)	昼休 12:15～12:55	3回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって	学習方法・情報収集について 説明 (私立幼稚園を含む)	57
	6/1 (金)	昼休 12:15～12:55	3回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって<予備日>	参加者少人数につき、グループトークと個別相談で対応	4
	10/3 (水)	5限 16:20～17:50	3回生対象 教職オリエンテーション 筆記試験対策を中心に <小・中・高・特支・政令指定都市の幼>	教員採用試験の傾向と対策 次年度の採用試験に向けて、外部講師による講演	60
	10/31 (水)	5限 16:20～17:50	幼稚園・保育所・福祉施設 説明会	採用試験に向けての学習対策 外部講師による講演(就職課と合同実施) *年度当初は10/17(水)に実施予定だったが、 講師の都合に日程変更	40
	11/21 (水)	4限 14:40～16:10	3回生対象 教職オリエンテーション 教員採用試験対策	秋から始める勉強について 教員採用試験体験談 4年生からの説明とフリートークによる交流	46
	11/28 (水)	4限 14:40～16:10	3回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員採用試験対策		21
	1/9 (水)	4限 14:40～16:10	3回生対象 教職オリエンテーション 教員採用試験情報 一般教養・教職教養対策を中心に	次年度の教員採用試験に向けての 情報収集方法と活用について、最新情報の提供など 外部講師による講演(有料講座の募集案内を含む)	64
	2/9 (土)	3限 13:00～14:30	3回生対象 教職・幼稚園オリエンテーション 教員・幼稚園教員の魅力と採用試験について	卒業生との懇談会 学校現場の様子や教員採用試験の体験談など 説明のあとフリートークによる交流	12
	オリエンテーション 2回生対象	6/5 (火)	昼休 12:15～12:55	2回生対象 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	小・中・高・特支・政令指定都市の幼 教員希望者対象 勉強の進め方、資質の向上について講義
6/15 (金)		昼休 12:15～12:55	2回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって	幼稚園教員希望者 勉強の進め方、資質の向上について講義	107
11/7 (水)		4限 14:40～16:10	2回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって	幼稚園教員希望者対象 勉強の進捗チェックおよび資質の向上について講義	30
11/20 (火)		昼休 12:15～12:55	2回生対象 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	小・中・高・特支 教員希望者対象 勉強の進捗チェックおよび資質の向上について講義	150

平成 24 年度「教職教育センター行事」について

カテゴリ	月/日	時間	行事名	内 容	参加人数
オリエンテーション 1 回生対象	6/12 (火)	昼休 12.15～12.55	1回生対象 教職オリエンテーション 学校の先生になりたい人へ	小・中・高・特支 教員希望者対象 教員採用試験の概要と求められる資質について講義 *他行事との重なりで参加できない学生のため、 同じ内容の講座を2回実施	82
	6/25 (月)	昼休 12.15～12.55			
	6/22 (金)	昼休 12.15～12.55	1回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園の先生になりたい人へ	幼稚園教員希望者 幼稚園教員採用試験の概要と 求められる資質について講義	91
	12/4 (火)	昼休 12.15～12.55	1回生対象 教職オリエンテーション	小・中・高・特支 教員希望者対象 教員採用試験に向けての 学習対策と資質の向上について講義	20
	12/14 (金)	昼休 12.15～12.55	1回生対象 幼稚園オリエンテーション	幼稚園教員希望者 幼稚園教員採用試験に向けての 学習対策と資質の向上について講義	11
教師のお仕事入門	6/6 (水)	午前	1回生対象 教師のお仕事入門(小学校①)	授業見学&児童との交流 グループに分かれて、教室を訪問 場所 小学校:富田林市立錦織小学校 小・中学校:堺市立さつきの小中学校・中学校 高等学校①②:大阪府立河内南高等学校 高等学校①③:大阪府立富田林高等学校	43
	6/20 (水)	午前	1回生対象 教師のお仕事入門(小学校②)		16
	9/11 (火)	終日	1回生対象 教師のお仕事入門(小学校③)		19
	9/13 (木)	午前	1回生対象 教師のお仕事入門(高等学校①)		13
	9/18 (火)	終日	1回生対象 教師のお仕事入門(小・中学校①)		14
	2/5 (火)	午前	1回生対象 教師のお仕事入門(高等学校②)		7
	2/7 (木)	午前	1回生対象 教師のお仕事入門(高等学校③)		3
2/14 (木)	終日	1回生対象 教師のお仕事入門(小・中学校②)	7		
ボラ ンティア 学生	4/24 (火)	5限 16.20～17.50	学校支援学生ボランティア説明会・研修会	24年度にボランティア活動を行う予定の学生対象に 登録や応募についておよび心構えや注意点について説明	登録者 108
	2/5 (火)	2限 10.40～12.10	学校支援学生ボランティア修了式	24年度にボランティア登録をし活動を行った学生を対象に 代表者が活動報告を行い、全員に修了証を授与	修了証 授与者 52
模 擬 試 験	4/14 (土)	9.30～13.20	有料 教職模試①(出題:東京アカデミー)	教員採用試験受験予定者を対象とする 学年は問わない 4月14日(土)の模擬試験は、 教職基礎演習のプレースメントテストを兼ねる 1月12日(土)実施の模擬試験は、 教職基礎演習のアチーブメントテストを兼ねる	123
	4/21 (土)	9.30～12.50	有料 教職模試②(出題:時事通信出版局)		19
	5/12 (土)	9.30～13.20	有料 教職模試③(出題:時事通信出版局)		41
	5/19 (土)	9.30～12.50	有料 教職模試④(出題:東京アカデミー)		34
	6/2 (土)	9.30～13.20	有料 教職模試⑤(出題:時事通信出版局)		26
	12/8 (土)	9.30～12.30	有料 教職模試⑥(出題:時事通信出版局)		16
	1/12 (土)	9.30～12.50	無料 教職模試⑦(出題:東京アカデミー)		136
	2/2 (土)	9.30～12.30	有料 教職模試⑧(出題:協同出版)		16
有 料 対 策 講 座	7/11 (水)	昼休 12.15～12.55	教員採用試験対策講座案内他 説明会	有料講座の募集案内や情報収集方法などについて説明	93
	8月	2・3・4限	有料講座 短期集中一般教養対策講座	時事通信社担当講師による講義	30
	2月	1・2・3限	有料講座 短期集中教職教養対策講座	次年度以降の採用試験に向けての学習対策 教員採用試験における頻出問題や重点ポイント等の講義と演習	85
	2～3月	1・2・3限	有料講座 短期集中一般教養対策講座		67

【事業報告】

先生をめざす学生への支援を通して (4年間を振り返って)

宇野 佳子*

大阪大谷大学教職教育センター（以下「センター」という。）は、実践的な教員養成をめざす機関として平成21（2009）年に設立されました。

私は、その開設当初から将来の先生をめざす学生の指導に携わることになり、4年目を迎えました。学校現場では、たとえ新任の先生で経験不足であっても、着任したその日からベテランの先生と同じ実践・対応を求められます。

また、新任教員が学校の教職員の多くを占めている学校も多くあります。このために、大学在学中から教育現場で必要な基礎的な資質能力・実践的指導力を身に付け向上させる必要があります。

センターでは、教職を目指す学生に基礎的な知識や基本的な物の考え方を共に考える授業、進路にかかわる相談、インターンシップやボランティアのサポート、教育実習指導や教員採用テストに関する心構え・講師等の紹介などを中心にかかわってきました。

学校現場で即戦力として働ける先生を育成するために「授業模擬実践室」等で面接・模擬授業・場面对応など教職現場に直結した内容を多く取り入れた実践的な取り組みをしました。

教育現場では、世の中の変化に伴ってソフト面・ハード面でも常に新しい取り組みを進めていく必要があります。センターには、電子黒板・電子機器（iPad）等の新しい教育機器を揃え、各種の教育専門誌・教育新聞など、時代に即応した教育の考え方を学べる資料が豊富に用意されています。新しいデジタル機器を活用した授業にも挑戦し、今日的な教育の流れを踏まえた教育実践が行われるよう、準備されています。

そして、教科教育の基本は、「教科書」です。センターには、小中高等学校の教科書が備わっています。学生は授業の合間等に、教科書を通して実践的学習に取り組んでいます。

例えば、小学校の教材の「漢字の組み立て」について、各教科書会社がどのような取扱いをしてどう表現しているかを比べ、どの教科書がわかりやすく表現しているかなどを研究する、また同じ教科書会社の1年から6年まで継続的に見ることで学年に応じた編集がなされている

*大阪大谷大学教職教育センター担当教授

先生をめざす学生への支援を通して（4年間を振り返って）

状況などを研究することで、先生としての基礎的な力を養い指導力の基礎となる力を身につけてもらうよう努めました。

かつて中学校の校長であった私にとって、新しく先生になった若者の育成は学校現場での大きな仕事でした。将来のある若い先生には「言ってみせ、やってみせ、やらせてみて、褒めてやらねば人は育たぬ」と温かく見つめながら育成することを大事にしてきました。

最後に勤務した学校では、新任の先生が4人同時に着任してきました。その当時、授業中立ち歩いたり、教室に入らなかったり、器物を壊すなど問題行動を取る生徒がたくさんいましたが、彼ら若ものがいつも協力しながら共に生徒の指導にかかわってくれました。校長である私も、学校を建て直すために「自分の学校は自分がまもるんだ」という強い気持ちでがんばりました。そして、新任の先生方も「自分のクラスは、自分がまもる」と言ってみせながらがんばってくれました。勇気と元気を出してみんなが心一つにして学校全体で生徒の指導に取り組むことができました。

学習指導や生徒指導や集団を動かす・コミュニケーションを取るなどいろいろな日々の指導は勿論とても大切ですが、もっと必要なことは、それをやってみようとする前向きで行動的な精神力をつけることだと考えます。

大阪大谷大学着任にあたり、最終勤務校の生徒会の子どもたちが作ってくれたモビールを持って授業に臨んできました。そのモビールとは、校長室の前に掛ける案内板です。両面に私の顔を描いたモビールに「モビールちゃん」という名前をつけました。それは教員生活38年間を締めくくる私にとって、とっとうれしい生徒からのプレゼントになりました。今や、「モビールちゃんは」私の宝物・お守りのようなものとなりました。はじめての授業のときは、いつも「モビールちゃん」の笑顔のほうを紹介しながら学生にパワーを授けてきました。

モビール「笑顔」



モビール「校長室」



先生をめざす学生への支援を通して（4年間を振り返って）

その「モバイルちゃん」の一面は、おかつぱ頭に「笑顔」のわたしがあり、もう一方の面は、「校長室」と書かれ口が「への字」になった渋い顔の私があります。本当に子どもたちは私の表情や行動までよく観察しているなと思いました。教員は、子どもを観察していますが、それ以上に子どもたちは、私たち教員のことを観察しているのです。実は子どもたちからいつもしっかり見られているのです。そして、その後ろに保護者や地域の皆さんがおられることを、忘れてはならないと思います。

子どもたちを評価するのは、教員の仕事ですが、優しく時には厳しい評価をうけていたのは、私たち教員のほうではなかったか、と改めて思いました。

4年間の相談内容を記録した「相談ノート」を開いてみると、懐かしい名前がいっぱい出てきます。もうすでに、教員採用テストに合格し、教諭として元氣活躍している学生たちの名前もあります。先生を目指して着々と歩みを進めている人、教員採用テストまで何をどうして勉強してよいのか悩んでいる人、ボランティアをしたいのにどうしたらよいかわかっている人への支援の記録が残っています。

初めての相談は、4年生の男子でした。

「将来は堺市の小学校の先生になることを希望し、障がいをもっている子どもへの算数支援をしたいので、堺市のどこかの学校へボランティアに行きたい。」という内容でした。

ボランティアの相談は、学生の通学経路や校種、学習支援やクラブ指導の希望等を聞いて、各教育委員会や学校と連絡をとり学生を紹介します。現在、彼は堺市の小学校の先生に採用され、学級担任として3年目を迎え、初めての卒業生を巣立たせる喜びも味わえました。順調に希望した進路を進んでいます。最近はやき伴侶にも巡り合え、幸せな家庭も築きつつあるという報告を受け、私もこの上ない喜びを味わせてもらいました。

そして、後輩となる学生たちが、彼の学校へ先輩への応援隊として「学生サポーター」や「堺・学校インターンシップ」やボランティアとして活動し、先輩の指導風景を見ながら、次は自分も教職現場で活躍するのだと、夢をふくらませながら学んでいます。

また、就職が決まらない学生からの相談があり、講師等の就職情報の提供にも努めました。

1年生で学校の先生になりたいという学生を対象に「教師のお仕事入門」を実施しています。具体的には、小・中・高校の学校現場で授業参観や子どもたちとのふれあいを通じて先生という職業を知ることが目的です。

中学校は「堺市立さつき野中学校」に受け入れをお願いしています。今までは、学校側のご好意で午前中に「堺市立さつき野中学校」、午後は隣接した「堺市立さつき野小学校」の小中学校両方を体験させていただいていました。ところが、平成24年4月より、「さつき野学園『堺市立さつき野小学校』『堺市立さつき野中学校』」として施設一体型小中一貫校として開校され、学校の体制・校舎等も整備されました。同じ敷地の中で、小学校・中学校の授業風景を

同時に参観することができます。また、子どもたちとのふれあいも小中学生の両方の子ども生徒たちと体験できました。学生の感想には「先生になりたいというモチベーションが急激にあがった」「中学生と一緒に英語の授業を受けて楽しかった」「中学1年生が小学生のよいお手本となるような生活行動をとらねばならないという意識が生まれている」などがありました。小学生から中学生の子どもたちの成長する姿が同じ校舎のなかで見ることができ、他の学校にはない新鮮な気分を味わえた学生もいました。

また、ある学生は小・中・高校すべての校種で「教師のお仕事入門」を体験し、将来の職業として自分はどんな学校の先生になりたいかを考えている学生もいます。実際の教育現場を1回生の時に経験することは、その後の進路選択をする上でとても大事な事だと思います。

2回生以上を対象にした「インターンシップ」は、「教育実習」へ行く前に幼・小・中・高校の学校現場を実践的に体験することで、学生にとってはとても参考になっていると思われます。授業として単位化されているので、事前授業・現場実習・事後指導という流れを通して「ミニ教育実習」のようにとらえて指導しています。

教育現場では、多忙な教育実践の中、教育実習生やインターンシップ生の受け入れは、ありがたくもあり負担でもあります。しかし、多くの自治体が学生の受け入れをしてくださっています。学生は、この活動を通じて「先生」と呼ばれる響きに感動し「先生になりたい」という気持ちが一層高まったという感想も多くありました。

生徒ではなく、「先生」として、活動体験させていただく、行くではなく、「行かせていただく」この感謝の気持ちを常に忘れずに送りだしています。

特に、事前指導は2回実施し「実習体験から何を学び取るか」「活動の意義及び心構えを理解する」と題して、服従＜教育公務員という自覚をもって＞・人権教育・服装・言葉づかい・あいさつなど・・・そして、活動目標をしっかり持って、「学校園では、子ども・先生・組織としてどう活動されているか」を見ることで、自己の課題を明確にしながら活動することに重点を置いて指導しています。

具体的に「電話の掛け方・職員室でのあいさつ・子どもたちへのあいさつ」等社会人としての基礎的な対応や先生としてあるべき態度の学習をします。

さらに、各自が生徒や先生や学校組織から何を学ぶかを、個人ごとに目標設定し、次に目標を書いた後、学校ごとにグループで話し合い、みんなの前で発表します。学生は、他の学校園の目標を聴くことで、よりはっきりとした方向性を感じながら学校へ出かけていきます。

そして、まとめとしての事後指導は、「活動日誌」「出勤簿」の提出と「振り返りシート」へ学んだこと・気づいたこと・発見したこと等の感想を記入した後、各学校の代表がみんなの前で発表し合いました。今回の感想の中に「初めて、生徒でない立場にたち、新しい発見があり絶対教師になりたい。」という先生を熱望する学生以外に「現時点では、一般企業への就職と

先生をめざす学生への支援を通して（4年間を振り返って）

教員採用テストの受験を逃しています。」「インターンシップをやってみて、自分には向いてないと分かった、今後は、自分に合う職業を探したい。」という感想がありました。わずか3日（高校）から5日（幼・小・中学校）の短期の現場体験ですが、インターンシップに行く前と後では、学生の意識に変化があったことが感じ取れました。「先生という仕事」は、多くの職業の中の1つです。自分自身を見つめ、自己にあった職業選択の一助になればと思います。

「教育実習指導」は、教育実習へ行く前に実際に教壇に立つために、教員として最小限必要な知識・技能・態度等の資質能力を身に付けて、学校現場へ送りだすことを目的とした事前の授業です。

先生としての心構えや教室での生徒に向ける視線や発問・説明する時の声の大きさ・間の取り方・板書などの実際的な学習内容・生徒指導をはじめ、学校現場で具体的にあった「いじめ」「授業妨害」等の体験や対応の仕方等実践的な内容を多く取り入れて指導しました。いろいろな事例を通して、学生が不安に思っていることが少しでも取り除かれるよう、安心して生徒と向き合えるような指導を工夫しました。例えば、毎時間授業の最後に記入する「振り返りシート」の感想を書き出して配布しました、多くの学生は、これを読むことで他の学生が考えていることや疑問点や質問内容等を知ることができ、不安な気持ちを持っているのは自分だけではないということを共有することができ、ほっとしていました。

多くの学生が教員免許の取得をめざしています。これはとても喜ばしいことです。

しかし、「絶対に先生になりたい」と強い希望を持っている人から「今は、希望しないが将来は先生になりたい」「一般企業を経験し、その後から先生になりたい」「免許をとりたいたけれどもすぐには先生になりたいと思っていない」という学生もいます。

教育実習は、時間と労力と在籍している生徒等、学校現場にかなりの負担をかけていますが、卒業生ということでどの学校からも温かく迎えていただいています。

「先生という仕事」は教育現場に立てば子どもたちと直接接し、即戦力を求められる大変責任の重い職業です。この教育実習を通して自分は先生として向いているか、不向きであるかをしっかり見極めることで、将来の自分の進むべき方向を見つけてほしいと思います。

教員採用テストの合格は、学生としては「ゴール」かもしれませんが、これから始まる長い教員生活においてはスタートです。

センターの大きな使命は、「先生になりたい」という夢をかなえる学生へのサポートです。「子どもが好き」「教員採用テストに合格したい」という思いだけでは合格「G判定」を手に入れることはできません。採用への具体的な内容・方法を学び、道筋をたてて進むことです。

先生になるということは、常に世の中の変化に応じて興味を持って学び続けることです。そして、それができる人がよい先生です。

先生をめざす学生への支援を通して（4年間を振り返って）

最後に、この4年間で感じたことは、大阪大谷大学の学生は「前向きでとてもまじめに取り組んでいる学生」だということです。

全国から本学への入学を希望した学生の多くは、「自分のやりたいこと」のはっきりした目標や夢を持っていました。これは、本当に素晴らしいことです。

卒業する時、「大阪大谷大学」で学んでよかった。

そして、先生になることに喜びを感じ熱意と自覚を持って卒業していくことが、「教育は人なり」「教職とは人づくり」をめざして4年間指導してきた、私の喜びです。

【事業報告】

「面接対策」に取り組んで

徳田喜代士*

I. はじめに

先日、教員採用試験に合格した卒業生5名を招き、教職をめざす後輩へのメッセージを聞く機会を得た。5名の内3名は、本年度講師をしながら教員採用試験に再チャレンジし、合格を果たした卒業生である。

現役で合格した者も、講師を経て合格した者も、共通して語ったことは、今日の子も達がおかれている状況の厳しさ、子どもと懸命にかかわり子どもと繋がることの喜び、教員としてのやりがいである。そして、現在勤務している学校の教育課題の克服に向けて、自分はどのように貢献できるのかに悩み、教職員の一員として日々実践している姿がひしひしと伝わってきた。教員になりたいという気持ちを持ち続けること、目的を同じくする仲間とともに頑張ること、ありのままの素直な自分を出すことの大切さを語ってくれた。

「面接対策」は教員採用試験合格を第一義として指導している。教員志望者の多くは、当該年度に合格しなくても、様々な採用形態で新年度から「先生」としてその任にあたる。私達は、実践的指導力を育成することを目的として「面接対策」の指導にあたった。

II. 「面接対策」のねらい

1. 教育をめぐる状況と教員養成の課題

現在の学校現場は、いじめ・不登校、学級崩壊等の生徒指導上の諸課題への対応、学力低下問題への対応をはじめ、複雑かつ多様な課題への対応が求められている。その中で、初任者は、他の経験豊かな教員と同様に「先生」として、子ども達や保護者と出会う。そして、経験豊かな教員と同じ困難な課題に直面することになり、理想と現実のギャップから、苦悩を深くする姿も見受けられる。子どもとの関係づくりでつまずき、その結果、保護者との関係づくりで悩み、その悩みを一人で解決しようとして、苦悩をより深くする。

平成24年5月15日、中央教育審議会 教員の資質能力向上特別部会『教職生活全体を通じ

*大阪大谷大学教職教育センター担当教授

た教員の資質能力の総合的な向上方策について（審議のまとめ）』では、教員の求められる資質能力として、「これからの社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開、学校現場での諸課題への対応を図るためには、社会からの尊敬・信頼を受ける教員、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教員、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する教員が必要である」と述べられている。

以上のめざす教員像の育成は、大学の教員養成課程全体の中に位置づけられ、実践されなければならないことは勿論、この「面接対策」の取り組みにおいても、重点的に取り組む必要があり、求められている課題である。

2. 「面接対策」を通じてつけて欲しい力

面接対策を受けることで、学生には次の3点を吸収できるよう指導に努めた。

(1) 教員としての自己を見つめ、自己を振り返り、自己を表現する力

「志望理由」と「自己PR」は面接の基本である。「志望理由」は、教員をめざす原点となる。なぜ教員になりたいか、教員をめざそうとしたきっかけは何か、教員になってどのようなことに取り組みたいのか。まず、教員をめざす自己の思いをじっくり考え、その思いを深め、高めていくことが、教員としての資質向上につながる。

「自己PR」とは、自分の良さ（魅力）を伝えることである。そのためには自己分析が不可欠で、それぞれが自己のこれまでの歩みを振り返り、自己を見つめ直す中で、自己の良さを発見する。強みも弱みも含めて表現することのできる力は、子どもや保護者の心を開くことにつながっている。

(2) 子ども理解と実践的指導力

生徒指導・学習指導の基盤は、子どもの様々な行動に込められている意味や思いを理解すること、子どもの良いところも弱いところも含めてまるごと子どもを理解すること、その子の良さを見つめることである。

2次面接等で課せられることのある「模擬授業」では、教材や授業に対する確かな知識・技能が求められている。「場面指導」では、諸課題に対する豊かな知識や情報が必要である。教育現場での日々の授業や様々な課題への対応を踏まえての授業力、場面对応力が求められている。

「模擬授業」及び「場面指導」の場は、子ども理解を具現化する場であり、その視点からの指導を大切にしている。

(3) 困難な課題に同僚と協働し対応する力、その基盤となる仲間との学び合い

学校現場では、チームで動き、働くことが求められている。困難な課題に直面した時に一人で悩むことは、問題の対応、解決の妨げになるからである。学級（教員一人）の悩みは悩みを

「面接対策」に取り組んで

共有することによって、問題の所在がわかり、学年・学校全体の課題となる。仲間や同僚・管理職に相談し解決をめざす力こそ、初任者の苦悩を希望に変えていく力となる。

「面接対策講座」や「面接・グループワーク練習」では、仲間との学び合いの場を可能な限り設けた。「面接対策講座」では、受講生各自が、全体の前で話す機会を設けた。それは、自己表現のみならず、仲間の考えや思い、表現の仕方を学ぶ機会でもある。自己および仲間に対する評価の時間を持ち、仲間と学び合うことの良さを実感してもらった。

学生達の仲間に対するやさしさ、共に活動する姿勢、信頼感を一層引き出す機会である。

Ⅲ. 平成 24 年度「面接対策」の概要

「面接対策」は、3 回生 11 月からの「面接ノート」づくりから始まるが、本格的な対策は、4 回生の 4 月から始まり、9 月の 2 次試験終了時まで続く。その後、私立小中高等学校、公・私立幼稚園採用試験への個別対応が翌年の 1 月ごろまで続く。対象は、4 回生及び卒業生である。

本年度の実施概要は以下のとおりである。

1. 面接対策講座

	実施日	時限	参加人数	内容
1	4 月 17 日 (火)	5 限	136	【教員採用試験面接対策講座①】 ・「志望理由」「自己 PR」とは・・・。 ・「エントリーシート」(志願書等)の作成に向けて ・面接に向けて、今、取り組んでほしいこと ※参加者の自己表現力を高めるため、一人ひとりが全参加者の前で「志望理由」を発表した。 ※授業との重なり等を考慮し、より多くの学生が参加できるように同じ内容の講座を 2 回実施した。
	4 月 27 日 (金)	5 限		
2	5 月 22 日 (火)	5 限	91	【教員採用試験面接対策講座②】 ・自己表現力を培うための演習(「志望理由」、「自己 PR」を中心に) ・集団面接の心得、「エントリーシート」(志願書等)の記入について ※「志望理由」または「自己 PR」のいずれかを全員が選択し、全参加者の前で一人ひとりが自己表現を行った。 ※「エントリーシート」(志願書等)記入についての具体的な指導を行った。 また、希望者を対象として、6 限に個別指導を行った。 ※より多くの学生が参加できるように同じ内容の講座を 2 回実施した。
	5 月 25 日 (金)	5 限		

「面接対策」に取り組んで

3	6月27日(水)	4・5限	40	【教員採用試験面接対策講座③ 面接実践編1】 ・模擬面接（集団）、ロールプレー、場面指導に取り組む。 ・集団討論、模擬授業について ※参加者を数人のグループに編成し、教員が面接官役を務め、参加者全員の模擬面接を実施した。また、ロールプレーも組み入れ、より実践的な練習を行った。
4	7月4日(水)	5限	20	【教員採用試験面接対策講座④ 面接実践編2】 ・模擬面接（集団）に取り組む。 ・教育現場の課題について及び面接についての最終確認。 ※直前対策として、模擬面接（集団）を全員が行い、また、今日的な教育課題についての情報提供、受験するにあたっての最終確認を行った。
5	8月1日(水)	4・5限	21	【教員採用試験面接対策講座⑤ 2次面接編】 ・個人面接及び「個人個票」（大阪府）、自己アピールシート（堺）等の記入について ・模擬授業、場面指導の練習 ※模擬授業のテーマをあらかじめ設定し、各自が希望のテーマを選択し、模擬授業を行った。 テーマが重なった場合は、同じテーマの者を1つのグループとし、授業内容を考え、代表者が模擬授業を行った。場面指導も模擬授業と同様の形式で行った。
6	8月23日(木)	2限	12	【教員採用試験面接対策講座⑥ 大阪府模擬授業対策編】 ※大阪府の採用試験（2次）において、平成25年度（平成24年実施）より、学校種別、教科等あらかじめテーマが設定されることとなった。授業で今求められていること、そして、その考えに基づいた授業の組み立てについての講話を行った。その後、参加者全員が模擬授業を行い、相互に評価し合った。
	8月24日(金)	2限		

2. 面接・グループワーク練習（集団面接、個人面接、場面对応、模擬授業、集団討論）

6月第1週から9月中旬まで、10時40分～17時50分の間を1時間から1時間半を1枠として、定員を決めて各種別の面接を行った。

教職支援課にある面接予約表に名前を記入することで予約が完了する。希望する学生がより多く練習をできるように1週につき1人あたり2回を原則とした。

面接練習は、センターの教員だけでなく、学科の教員にも協力を依頼することで、多様な視点、観点から練習ができ、意義深いものとなった。今年度の実施概要、参加人数等は次頁の表のとおりである。

「面接対策」に取り組んで

面接・グループ練習一覧

	第1次試験対策 面接	練習第2次試験対策 面接練習
期 間	6月4日(水)～7月20日(金)	7月23日(月)～9月7日(金)
参加回数	原則(1週間に2回)	随時
参加人数	延べ464人(昨年度463人)	延べ215人(昨年度344人)
面接種別	集団面接・個人面接・集団討論	集団面接・個人面接(場面指導を含む) ・集団討論・模擬授業
教員体制	センター担当特任教授、センター教員	センター担当特任教授、センター教員
備 考	7月以降は、 教育学部および文学部教員も指導。	7/23(月)～8/10(金)は、 教育学部教員も指導。

IV. 成果と課題

教員採用試験を終えた学生には、「受験結果報告書」の提出を求めている。任意ではあるが、多くの学生が協力してくれている。内容は、受験先、筆記試験・実技試験・面接試験の内容、そして、感想・対策・後輩へのアドバイス等である。報告書は、個人情報伏せをうけてファイルに綴じ、学生が自由に閲覧できるようにしている。

本年度の「受験結果報告書」より、後輩に対するアドバイスの一部を紹介する。

〈志望動機・PRについて〉

- ・自分はこういう人物だ、こういう教育をしたいと考えている、大切にしていることはこれだ、など、キーワードを必ず押さえておいた方がいいと思います。そうすると軸がしっかりした、筋が通っている回答ができると思います。
- ・面接は自分の考えがぶれないように、自分をしっかり持つと大丈夫。個人面接は、自分が先生になりたい気持ちをアピールするチャンス。途中であきらめないでやり遂げてください。

〈面接練習について〉

- ・面接練習の中で本当に教員になりたい気持ちがさらに出てくるし、どんな教員をめざしたいと思っているかが分かってくるのでよかったと今は思える。
- ・面接と模擬授業は教職教育センターで練習しました。周りの人を見て学んだり、先生から指摘していただいた内容を中心に自分の伝えたいことを絞っていきました。

〈自己対策について〉

- ・先生だけでなく日ごろから友達と練習することが大切だと思いました。
- ・センターで面接練習するのもいいが、友達とやっておくといい。先生とやるよりも緊張す

「面接対策」に取り組んで

るので…

以上を踏まえて、今後は次の3点についての取り組みを一層深めていきたい。

- (1) 教員になり教員を続けるにあたって原点となるぶれない軸の確立と、自己を素直に表現する力の育成
- (2) 学部を超えた多くの教員の面接指導への協力体制
- (3) 学生同士の学び合い

平成25年度実施の教員採用試験より、大阪府、大阪市の「教師塾」（通称）修了生は1次試験が免除となり本学からも多くの学生が入塾し学んでいる。堺市、奈良県等の「教師塾」に入塾している学生も多い。各自治体が主催する教師塾は自治体によって様々だが概ね3回生を対象としている場合が多い。必然的に、学生の意識も早くから高まり、面接対策も2月中旬から要望する声が聞かれる。平成25年度はこれらを踏まえ次のような対策を考えている。

- (1) 時期を早め、自己表現力を豊かにする。
- (2) 学生が主体的に取り組むためのテキスト等の提供
- (3) 「教師塾」入塾のための対策強化

一方で、「面接対策」の取り組みに参加していない学生や参加しても、徐々に人数が減る傾向にある。より多くの学生が参加できるよう、実施する時期、内容等の工夫に努めたい。

V. おわりに

平成24年度は、前年度よりも多い現役合格者を出すことができた。卒業後に再度チャレンジし、見事合格した卒業生も現役合格者と並ぶ状況であった。現役合格は勿論のこと、卒業生からの報告は、私達には無上の喜びである。

教員採用試験終了後から卒業までの6か月間は、新年度から「先生」として子ども達と出会う学生にとって、大切な準備期間、助走期間である。この期間がより充実した意義深い期間となるよう支援し、将来に生かされることを願っている。